

裏磐梯の絶滅危惧種 花

1. 目的

昨年調査した絶滅危惧のオサバグサとオキナグサそしてトキソウの調査及びミヤケランとセイタカスズムシソウを調査する。

2. 結果

下記に示す調査対象種（地点）については、前年に比べて大きな変化はなかった。

3・考察

生育にマイナスの要因と思われるもの

- 1) 自然の遷移による
- 2) 園芸の為の採取
- 3) 湿原の開発
- 4) 森林の伐採
- 5) 気候の変化

裏磐梯では主なる原因是1)、2)、3)、5)などが考えられる。

4・対策

- 1) 環境省などが保護に力を入れてもらう。そして盗掘の取り締まりをする。
- 2) 民間の自然ガイドなどを監視員に委嘱し、巡視の協力をしてもらう。
- 3) 当該地点については特定の監視員等のみが把握し、一般への公表は控える。
- 4) 子供達に生物の多様性の大切さを教える。

以上のような点をふまえて、早急なる保護対策が必要と思われる。

5・概要

平成25年5月23日

平成25年6月12日

平成25年6月22日

平成25年7月 7日

平成25年7月20日

調査者 友坂 豊

調査項目及び結果 以下に示す

【 裏磐梯の絶滅危惧種 】

1 オサバグサ群生地

	日付	2013年 5月23日
	天候	晴れ
	場所	築部山付近
	分類	福島県：絶滅危惧 II 類
		30度強の北西の斜面の約100m ² の所 に群生をしている。その他に数カ所、オ サバグサが自生している情報がある
その 他 植 物	木本がホオノキ、ブナ、シナノキ、アカイタヤ、ハウチワカエデ、オオカメノキ、 アオダモ、ツルアジサイ、ツリバナ、ヒメアオキ、タニギキョウ、ニワトコ、 テツカエデ、オオバクロモジなど 草本がギョウジャニンニク、リョウメンシダ、ショウジョウバカマ、エンレイソウ、オシダ、ラショウモンカ ズラ、ヤグルマソウ、ユキザサ、イヌドウナ、ソバナ、 オクモミジハグマ、サンカヨウ、シシガシラ、ウスバサイシン、など	

2 オキナグサの群生地

	日付	2013年 6月12日
	天候	曇り
	場所	磐梯山のガレ場
	分類	環境省：絶滅危惧 II 類 福島県：準絶滅危惧
		20メートル四方に約100株ほど すでに 種を飛ばしたあとでしたが数株花をつけ ていました 去年とほぼ同じ状況でした。小さい株が たくさんあり、今後の群生が期待されそ うです。
他 植 物	他にコウリンタンポポの小さい株バンダイクワガタ、シラタマノキ、キタゴヨウ、マルバシモツケ、ススキ、マルバキンレイカ、キツネヤナギ、イタドリ、アズマギク、ヤマブキショウマ、ウスユキソウなどの 植物が自生しています	

3 トキソウ 群生地



日付	2013年 6月 22日
天候	くもり
場所	五色沼付近
分類	環境省：絶滅危惧 II 類 福島県：準絶滅危惧

裏磐梯のおよそ 2000 m²の私有地の湿地に 1000 株以上のトキソウが去年と同様に群生していました。他にヤナギラン、サワヒヨドリ、カキラン、コオニユリ、エゾミソハギ、ウメバチソウなどの湿原の植物がたくさん確認されました。湿地に生えるハンノキやシロヤナギなどはこの管理者によって草刈が毎年行われるので日光がよくあたっています。

4 セイタカスズムシソウ 20株位



日付	2013年 7月 7日
天候	晴れ
場所	五色沼付近
分類	福島県：絶滅危惧 I 類

ラン科クモキリソウ属のこの仲間は林縁によく生え、回りの環境に大きく作用され住む場所が制限され少なくなっている植物の一つです。福島県のレッドデーターブック2003年版では会津地方の山地の林床で確認されているが、今回のレッドデーターブックの調査では確認出来なかったと記載されているほど数が少ない植物である。仲間にシテンクモキリ、フガクスズムシ、ジガバチソウなどがありとても地味な花である。人の手が入っており草刈などがなされている場所です。

5 ミヤケラン 20株位



日付	2012年 7月20日
天候	晴れ
場所	裏磐梯地区
分類	

福島県の古い文献では記載があるがあまり詳しい情報はない様です。分類上はミヤケラン(草丈 20~40cm)・タカネトンボ(草丈 8~20cm)の変種で花は淡緑色の花を穂状に付ける、ツレサギソウ属の仲間で2枚の光沢のある橢円形の葉が特徴で北海道と東北地方に分布している。花数もタカネトンボと比べると多い。